

+ Viva Kango

Campus News of Japanese Red Cross Hokkaido College of Nursing

日本赤十字北海道看護大学



第一回卒業式

卒業生一〇四名が新たな旅立ち

平成十五年三月十二日、平成十四年度日本赤十字北海道看護大学卒業式が残雪の残るなか厳粛に挙行されました。本学にとっては初めての卒業式であり一〇四名（女性九三名、男性七名）の卒業生を送り出すことになりました。

式場となった講堂には、卒業生と父母、在学生、教職員らが集い、まず卒業生全員の名前が紹介されたのち、卒業生を代表して小里裕美さんが松本光子学長より卒業証書・学位記を授与されました。その後、松本学長から「看護という専門の知識と技を手段として人々の健康と安寧に貢献されること、また、一生の仕事として看護の向上に貢献していただくことを期待します」との式辞がありました。引き続き、日本赤十字学園近衛忠輝理事長の挨拶、北見市長 神田孝次氏、日本赤十字社北海道支部長 伊藤義郎氏、北見赤十



卒業証書・学位記授与

字病院長 小沢達吉氏からそれぞれご祝辞を頂き、その他多くの祝電披露を受けました。

また、在学生を代表して菅沼茜さんが「卒業生の皆様方が築かれた協調性や連帯性を大切にして、本学がさらに発展するよう私たちも努力していきたいと思えます」という送辞があり、続いて、卒業生代表の大塚万由子さんは「赤十字の理念を忘れずに、対象の個性を生かし、かつ自分らしさを生かした看護を実践し、これからの保健医療を担っていききたいと思えます」との答辞を述べ、医療スタッフとして第一歩を踏み出す決意を新たにしました。

卒業式終了後、夕方からホテル黒部において謝恩会が開かれました。卒業生は艶やかなドレス姿に身を包み、卒業生と教職員が名残惜しさを噛みしめながら楽しいひと時を過ごしました。



謝恩会

平成十五年度入学式

学部生一一一名、 大学院生五名入学



四月七日、学部一一一名（女性一〇五名、男性六名）、修士課程五名の入学生、父母、関係者を迎え、日本赤十字北海道看護大学の講堂において、平成十五年度入学式がとりおこなわれました。

最初に、入学生全員の名前が紹介され、入学生は、松木光子学長からの式辞・日本赤十字学園の近衛忠輝理事長の挨拶（山田史常務理事代読）・北見市の神田孝次市長のご祝

辞、多くの祝電の披露を受けました。その後、在学生を代表して、三年生の太田恵美さんから歓迎のことばを受け、続いて入学生代表の青野祐依さんが、誓いの言葉を述べました。

入学式終了後は、入学記念写真の撮影が行われ、希望と

緊張の大学生生活第一日目は無事終了しました。



新入生歓迎会

四月八日、本学講義・演習棟の廊下にて学生自治会主催による新入生歓迎会が行われました。学長の挨拶、ジュースで乾杯、各講座の教員紹介などのセレモニーがありました。

だが、テーブルには豊富な食べ物を用意され、和気あいあいとした雰囲気の中で、学生、教職員が談笑しました。その後の大抽選会、部活動の紹介で会場が一層盛り上がり、楽しくにぎやかなこのひと時で、新入生は大学生活に溶け込んだのではないのでしょうか。

学部長就任の挨拶 —よき人生に 向けて—



学部長 高間 静子

人には多くの品性が求められ、専門職を業とするとさらにそれが強く求められます。人という字は支えあつて倒れない。支えあえる関係は相手の愚かさ弱さを誹謗せず愛をそぐことで築かれます。専門職はたゆまぬ自己研鑽があつて人に役立つことができず。しかし、自己研鑽を怠つたり方法が解らず愚かさを働いてしまいます。相手を愚かと思つて見下しあたりに広めず、不利益をもたらさず慈しみ力を貸して支えなさい。人から敬愛されたいことを嘆かず、敬愛は己の品性から生まれるものです。愛や慈しみ力を貸す才能は人と与えられている天分であります。人に生まれたい恩恵に感謝し、天分を分かち合い人としての品性を培う努力を忘れないでほしい。

新入生歓迎のことば



学部長 松木 光子

今年度は学部第五期生として

一一一名、そして研究科第一期生として五名が入学されました。

した。入学おめでとうございます。この三月卒業しました第一期生はその殆どが看護系に就職をしました。少子化・高齢化が進行しているわが国では、社会は一層看護職の活動に期待をかけてきています。特に学部は看護専門職の基礎教育を行いますので、将来発展できる基礎的基盤をじっくりと培い、自分の人生の目標をそれぞれが見出されることを願っています。

研究科は一期生の卒業に続いて、今年設置したものです。

領域としては基礎看護学、成育看護学、急性期看護学、地域看護学、および臨床薬理看護学の五つを開設し、看護教員や研究者、特定分野の専門家の育成がねらいです。昼夜にわたって開講していますので、学生の殆どは職場を持ちながら学習を現在洗刺と継続しています。

北海道の道東における唯一の看護大学を看護の生涯学習・研究の場として、共に学び、創造していくことを願って歓迎のことばとします。





六月二十八日(土)、二十九日(日)、本学構内で第五回大学祭が開催されました。今年のテーマは「しゃにむに〜燃えたいぞれ 若き力〜」。人気のヘルスチェックや、新企画の実習室体験ツアーなど、看護大らしさにあふれた大学祭となりました。

初日の天候は晴れ。午前十時の合図とともに第五回大学祭が開幕しました。模擬店の食欲をそそる香りのなか、来場者はさつそく色とりどりに飾られた学内へ。恒例の「ヘルスチェック」では、血圧や体脂肪、握力、各種身体測定のほか、今年は棒反応、動体視力、骨密度を加え、例年にも増して総合的な健康チェックとなり、来室者は過去最高の三二四名を数えました。野外ステージでは、看護大音楽部のハンドベルの澄み切った響きや薄荷童子の「よきこい」の力強い舞が披露されたほか、カラオケ大会も開かれました。また学内では、教室を使用して写真部による喫茶店や「医療を考える会」の発表が行われました。

二日目は、あいにくの天候にもかかわらず前日にも増してのにぎわいとなりました。今年をはじめの企画となった

第5回 大学祭

Cross Hearts Festival



「実習室体験ツアー」には三十五名の参加があり、中でも若い学生の手による「足浴」には「癒される〜」の声も。また、新型肺炎が世間をにぎわせたこともあって正しい「手洗い」の実習に熱心に取り組んでいました。指導にあたった教員の皆様、ご苦労様でした。

野外でのステージ発表を予定していたZ-10のゴスペルライブは、雨のため会場を講堂に移して実施され、室内いっぴいに力強い歌声が響き渡りました。献血車での献血には七十四名の協力がありました。一般公開終了後の午後五時から、学生一五一名に教員を交えて、後夜祭がアリーナにて盛大に開催されました。また午後八時には、雨の中、グラウンドで打ち上げ花火を挙行し、二日間の全日程を終了しました。

この時期、北見工大、北海学園北見大学でも大学祭が開催され、大学祭は北見の初夏を彩る風物詩となりました。



平成15年度入試概況

試験区分	推薦入学試験		一般入学 試験	大学入試セ ンター試験 利用入試
	公募推薦	指定校推薦		
募集人員等	35名	10名	45名	10名
志願者数	43名	14名	214名	164名
受験者数	43名	14名	208名	164名
合格者数	36名	14名	85名	43名
実質倍率	1.2倍	1.0倍	2.4倍	3.8倍

■入学者(出身高校)都道府県別内訳

北海道(90名)・青森県(2名)・秋田県(1名)・茨城県(1名)・栃木県(1名)・群馬県(2名)・千葉県(1名)・東京都(4名)・神奈川県(2名)・新潟県(2名)・長野県(1名)・静岡県(1名)・兵庫県(1名)・徳島県(1名)

■入学者(出身高校)北海道地域別内訳

網走地域(35名)・石狩地域(14名)・後志地域(1名)・上川地域(11名)・宗谷地域(1名)・渡島地域(2名)・空知地域(4名)・胆振地域(2名)・日高地域(1名)・十勝地域(9名)・釧路地域(10名)



- 【採用】
- 平成十五年四月一日付
 - 助 手 伊藤ゆかり
 - 助 手 泉 玲子
 - 助 手 吉田 和枝
 - 講 師 矢萩 悦啓
 - 助 教 授 尾山とし子
 - 助 教 授 平吹登代子
 - 教 授 梶山 祥子
 - 教 授 高岡 静子
 - 平成十五年五月三十一日付
 - 講 師 高橋 幸枝
 - 次 長 村田 浩
 - 助 手 村林 弥生
 - 助 手 岸野 垂矢
 - 助 手 藤田 正子
 - 助 手 川城由紀子
 - 講 師 久賀久美子
 - 講 師 吉田みな子
 - 教 授 J・S・カーティン
 - 教 授 影山セツ子
 - 教 授 内山 芳子
 - 教 授 芝木 秀俊

【編集後記】
VivaKango 第九号をお届けします。今回は本学初の卒業式を掲載でき、大変光栄でした。学長のメッセージとともに新学部長の就任挨拶も掲載させて頂きました。今年の大学祭の記事の印象はいかがでしたか。皆様のご協力を得て、今後も誌面の充実に努力していきます。

日本赤十字北海道看護大学学内誌

+ Viva Kango

第9号

発行日/2003年7月17日

編集・発行/広報委員会

〒090-0011 北海道北見市曙町664-1
Tel.0157-66-3311 Fax.0157-61-3125
mail to : kouhou@rchokkaido-cn.ac.jp
http://www.rchokkaido-cn.ac.jp

網走支庁管内(北見工業大学・北海学園北見大学・東京農業大学・日本赤十字北海道看護大学)大学間の単位互換が今年四月から開始されました。

この単位互換は、相互の交流と協力を促進し、教育内容の充実を図ることを目的として四大

学間で単位互換の協定を結んだものです。この協定により受入れる学生は、「特別聴講生」と称し、授業に支障のない範囲で四大学がそれぞれ受入れ、履修した授業科目の単位認定を行う制度です。

後期にも受付を致しますので希望する学生は、教務課までお問合せ下さい。

網走支庁管内大学間の単位互換始まる

学間で単位互換の協定を結んだものです。この協定により受入れる学生は、「特別聴講生」と称し、授業に支障のない範囲で四大学がそれぞれ受入れ、履修した授業科目の単位認定を行う制度です。

教職員人事

- 【退職】
- 平成十五年三月三十一日付
 - 教 授 芝木 秀俊
 - 教 授 内山 芳子
 - 教 授 影山セツ子
 - 教 授 J・S・カーティン
 - 教 授 吉田みな子
 - 教 授 久賀久美子
 - 講 師 川城由紀子
 - 助 手 藤田 正子
 - 助 手 岸野 垂矢
 - 助 手 村林 弥生
 - 次 長 村田 浩

- 【昇任】
- 平成十五年四月一日付
 - 教 授 二ツ森栄子(助教授)
 - 教 授 大西 章恵(助教授)
 - 助 教 授 平山恵美子(講師)
 - 助 教 授 休波 茂子(講師)
 - 講 師 山本 美紀(助手)
 - 講 師 根本 昌宏(助手)
 - 教 務 課 長 唯野 俊一(総務係長)
 - 平成十五年四月七日付
 - 助 手 宮地 善子
 - 次 長 山本 明

シリーズ 講座紹介

母子看護学講座

今回は、母子看護学講座の8名の教員を紹介します。

■梶山祥子教授

4月に着任し、緑の野山、雪を戴く山々に感動しています。小児科病棟・小児専門病院での臨床と看護教育を経験し、子どもたちから沢山教えられて、小児がんの子ども・極低出生体重児への支援をライフワークとしています。

■上野美代子教授

母子看護学講座の研究室は6階東です。全員単身者(あるいは単身赴任)なので、夜遅くまで電気がついています。用事のある方も無い方も来訪歓迎です。話題は映画?芸術?お笑い?哲学?就職や進学の話??

■平山恵美子助教授

長い間、臨床で助産師として経験し、妊産婦との関わりから得た私の看護者としての心を伝えていきたいと思っています。生活習慣病が、更年期の私を襲って来ています。これから天気の良い北見で散歩を心掛けようと思っています。

■吉川一枝講師

時々研究棟6階の踊り場から遠くの山を眺めては季節の移ろいを楽しんでいます。もうすっかり初夏の色です。好きなこと、野山の散策、旅行、掃除(雑巾かけ)・・・たくさん。3人の子持ち、夫は1人。小児看護を担当しています。

■石若令江講師

母性看護学を担当しています。妊婦さんやBabyに接する機会が少ない学生の皆さんにわかりやすい講義・演習をしようとする毎日です。そんな私を癒すものは餌いネコ、園芸、ビール、温泉、愚痴を言うです。

■佐藤久江講師

松井秀喜の才能、清原和博の存在感、桑田真澄の自己コントロール能力、長嶋前監督のように英語を操り、原監督の巨人愛、顔は高橋由伸、こういう人がいたら結婚しようと思います。だから独身なのです・・・。

■島 明子助手

母性看護学や助産学実習で、学生の皆様から時には叱責を受け、時には笑顔を受け、学びの日々です。関心領域は更年期女性の健康増進です。(ひそかに平山先生の健康を観察中)趣味は、デハ地下巡りで歩き疲れることです。

■伊藤ゆかり助手

今年の4月から北見にきました。景色の良い所にある綺麗な学校で勉強するにはとても良い環境だと思いました。この素晴らしい環境の中で、学生の皆さんと一緒に勉強しながら頑張りたいと思います。よろしくお願いします。



前列左から：平山助教授、上野教授、梶山教授
吉川講師、石若講師、佐藤講師、島助手、伊藤助手